

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名								飯田 麻紗子			
精神医学				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
学習内容:理学療法士として必要な精神疾患、発達障がい等の知識や対応方法を学ぶ。心構え:担当教員が心療内科等の現場で接した精神疾患、発達障がいを抱える患者さんの事例を提供し、患者さんへの必要な配慮等が身につくよう、ディスカッションを交えて指導する。											
〔到達目標〕											
理学療法士として精神疾患や発達障がい等を有する患者さんに接する際に必要な知識を身につけ、個々の状態に必要な対応が求められる。近年は多様性が求められていることから、柔軟な発想の下、個々のニーズに応じた配慮を身につけることができるようにする。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
テキストの購入は任意 やさしくわかる精神医学 アスリートのメンタルは強いのか？					授業内容の復習として小テストを実施する。各自資料を確認し授業内容の復習に努めること。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	授業概要（ガイダンス） 精神医学の概要・歴史的背景					精神医学の重要性を理解する。 てんかん発作時の対応方法を身につける。					
2	てんかんに関する基礎知識及び対応方法 統合失調症に関する基礎知識（症状、治療法）及び対応方法					統合失調症の特徴を説明できるよう理解を深め、統合失調症患者さんへの対応方法を身につける。					
3	第1回と第2回授業内容の確認テスト実施（10点満点） うつ病、双極性障がいに関する基礎知識（分類、症状、治療法）					確認テスト及び解説により知識を定着させる。 うつ病、双極性障がい、不安症の特徴を理解し、対応方法を身につける。					
4	不安症、強迫症、パーソナリティ障がいに関する基礎知識（分類、特徴）					不安症、強迫症、パーソナリティ障がい、それぞれについて現場で起こりうる事例を学び対応方法を身につける。					
5	性別違和、認知症に関する基礎知識（特徴、治療法）					性別違和と認知症、それぞれに関する基礎知識を身につけ、患者さんおよび家族への対応方法を学ぶ。					
6	第3回から第5回授業内容の確認テスト実施（10点満点） 摂食障がい、依存症に関する基礎知識及び対応方法					確認テスト及び解説により知識を定着させる。 摂食障害、依存症全般に関する基礎知識を定着させる。					
7	スポーツ現場における精神疾患					スポーツ現場において発生頻度の高い精神疾患を学び、理解を深める。					
8	第6回と第7回授業内容の確認テスト実施（10点満点） 発育発達期の心理的特徴と精神疾患					確認テスト及び解説により知識を定着させる。 発達年齢の心理的特徴を理解し、年齢に応じた対応方法を身につける。					
9	発達障がい（自閉スペクトラム症、注意欠如多動症）の基礎知識（特徴）					自閉スペクトラム症と注意欠如多動症についてそれぞれの特徴を理解し、説明できるようにする。また発達障がいを抱える患者さんへの対応方法を身につける。					
10	第8回と第9回授業内容の確認テスト実施（10点満点） 発達障がい（知的障がい、学習症）の基礎知識（特徴）					確認テスト及び解説により知識を定着させる。 知的障がいと学習症についてそれぞれの特徴を理解し、説明できるようにする。 合理的配慮について学び、具体的な対応方法を身につける。					
11	スポーツ選手と発達障がい					スポーツ選手と発達障がいの事例から知識を深め、説明できるようにする。					
12	第10回と第11回の確認テスト実施（10点満点） リハビリ期の受傷アスリートと精神疾患					確認テスト及び解説により知識を定着させる。 受傷アスリートの心理状態を理解し、リハビリにおける対応方法を身につける。					
13	パラアスリート（中途障がい）と精神疾患					中途障がいのパラアスリートの心理状態を理解し、リハビリにおける対応方法を身につける。					
14	期末試験 解説					テストにより学習の定着度を確認し、解説により理解度を深める。					
15	総論					「精神医学」の総論および質疑応答					
〔評価について〕					〔特記事項〕						
①確認試験（小テスト）50点＋②期末試験 50点＝100点満点とし、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。					多様性を理解することも精神医学に必要であるため、ディスカッションやワーク等には積極的に参加すること。知識の定着に加えて、柔軟な発想・思考が必要となるため、疑問点は確認すること。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名								桜井 徹也			
老年学				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
担当教員は、長年、医療および介護分野においてリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。 本講義では、高齢者に特徴的な疾病、外傷とその治療およびリハビリテーションを理解することを目的とする。											
〔到達目標〕											
・心身の健康から見た高齢者の特徴を理解する。 ・加齢変化の特徴を理解して高齢者特有の疾患を習得する。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
老年学					専門用語が多い科目のため予め配布資料を読み予習し、 授業後も復習をし用語の意味を理解することが望ましい。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	老年学とは					老年学を学ぶ必要性を理解して、 国内の高齢化に関する知識を身につける					
2	高齢者とは					高齢者の特徴を理解し、加齢に伴う 運動機能や精神・心理機能の変化を習得する					
3	高齢者には何が必要か？					医療や介護、栄養など様々な分野から高齢者に とって必要なものを考える					
4	小テスト①/高齢者に対して何ができるか？					理学療法士として高齢者に対してできることを考える					
5	高齢者に特有の疾患・障害 フレイル、サルコペニア					フレイル、サルコペニアについて理解する					
6	軽度認知障害(MCI)、認知症					MCI、認知症について理解し、 リハビリテーションの役割を理解する					
7	うつ病					うつ病について理解し、うつ病に対する リハビリテーションを習得する					
8	小テスト②/転倒・骨折①					転倒・骨折についての理解を深め、 評価、アプローチ方法について習得する					
9	小テスト②/転倒・骨折②					転倒・骨折についての理解を深め、 評価、アプローチ方法について習得する					
10	栄養障害					高齢者の栄養障害について理解し、 栄養とリハビリテーションとの関わりを習得する					
11	摂食・嚥下障害					摂食嚥下について理解し、 摂食・嚥下に対するリハビリテーションを習得する					
12	小テスト③/心疾患・呼吸器疾患					高齢者における心疾患・呼吸器疾患について理解し、 リハビリテーションを習得する					
13	腎疾患					高齢者における腎疾患について理解し、 リハビリテーションを習得する					
14	がん					がんについて理解し、 がんに対するリハビリテーションを習得する					
15	期末試験					第1～14講義の内容を理解し、説明ができる					
〔評価について〕					〔特記事項〕						
小テスト30点、期末試験70点の合計100点満点で評価し、59点以下を不合格とする。 ※小テスト：各講義内で実施。講義内容を復習する内容					講義では、老年学をよりよく理解できるように、重要なポイントについてのみ解説する。学生は自主的に資料を読み、人体の加齢変化についての理解を深めなければならない。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名						渡辺 寛			
画像診断学		必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕									
リハビリテーション病院の医師による理学療法士がリハビリテーションを行なうために必要な画像の評価、治療機器について学習する。特に理学療法士は医師の指示のもとによる医療行為が法律上定められており医師と同じ視点で画像診断も診られるようになってほしい。									
〔到達目標〕									
・ 疾患に即した画像の評価について診られるようになる ・ 画像診断で医師からどのような指示が出てても理解できるようになる									
〔使用教材、参考文献等〕				〔準備学習・時間外学習〕					
・ 授業時配布資料				普段から時事問題に関心を持ちながら理学療法士としての役割の広さを考えながら参加すること					
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	リハビリテーションに必要な評価機器について 1			それぞれの機器について、名称と使用用途目的・対象疾患を理解できる					
2	リハビリテーションに必要な評価機器について 2			それぞれの機器について、名称と使用用途目的・対象疾患を理解できる					
3	リハビリテーションに必要な評価機器について 3			それぞれの機器について、名称と使用用途目的・対象疾患を理解できる					
4	画像診断総論 1			画像診断に用いられる機器の種類・評価方法について理解できる					
5	画像診断総論 2			画像診断に用いられる機器の種類・評価方法について理解できる					
6	画像診断各論・頭部外傷 1			画像診断による頭部外傷を診られるようになる					
7	画像診断各論・頭部外傷 2			画像診断による頭部外傷を診られるようになる					
8	画像診断各論・頸部			画像診断による頸部を診られるようになる					
9	画像診断各論・くも膜下出血			画像診断によるくも膜下出血を診られるようになる					
10	画像診断各論・脳出血			画像診断による脳出血を診られるようになる					
11	画像診断各論・脳梗塞			画像診断による脳梗塞を診られるようになる					
12	画像診断各論・脳腫瘍			画像診断による脳腫瘍を診られるようになる					
13	画像診断各論・胸部			画像診断による腰部を診られるようになる					
14	画像診断各論・腹部腰部			画像診断による腹部腰部を診られるようになる					
15	期末テスト								
〔評価について〕				〔特記事項〕					
評価は筆記試験で行う。 筆記試験小テスト30点と期末テスト70点の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	3	開講区分	前期	担当教員 桜井 徹也			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15(1)	授業回数	8
予防とリハビリテーション									

〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

担当教員は、長年、医療および介護分野においてリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義の目的は、介護予防や生活習慣病などをはじめとした予防に対するリハビリテーションの知識を身に付けることである。

〔到達目標〕

予防を必要とされている分野(介護予防や生活習慣病など)について理解する。
様々な分野において予防的アプローチを実践することができる。

〔使用教材、参考文献等〕

健康運動士養成講習会テキスト

〔準備学習・時間外学習〕

2・4・6回時は、小テストを行うこととする。そこで学習の復習が出来る様、ポイントを再学習してくることは望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	介護予防と運動について①	高齢者の現状と介護予防の重要性について理解する 身体の加齢変化の特徴や転倒の予防について理解する
2	小テスト/ 介護予防に関する体力測定法とその評価について	介護予防事業について理解する 実際の測定方法について理解する
3	介護予防と運動について②	運動指導において配慮すべき点など 運動指導の実際について理解する
4	小テスト/ロコモティブシンドロームについて	ロコモティブシンドロームについて理解する
5	メタボリックシンドロームについて	メタボリックシンドロームについて理解し、 その予防方法について学ぶ
6	小テスト/健康作り運動の実際について	ウォームアップやクールダウン、ストレッチングなどの 実際について理解する
7	スポーツにおける障害予防教室の実際	スポーツにおける障害予防教室の実際を理解する
8	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていない ところを把握し、理解度を深める。
9		
10		
14		
15		

〔評価について〕

評価は筆記試験、小テストで行う。
筆記試験は小テスト（10点×3=30点）、期末テスト（70点）の合計100点で判定し、評価は学
則規定に準ずる。

〔特記事項〕

ハーフパンツやTシャツ等の自らが動きやすい服装であり、かつ触診がしや
すい服装で出席のこと。
実際の臨床場面を想定しているため、服装や髪形に留意すること。
スケジュールは変更の場合あり。

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名		桜井 徹也									
スポーツリハビリテーション論		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	15 (1)	授業 回数	8		
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する） 担当教員は、長年臨床においてスポーツリハビリテーション分野の治療に携わってきた理学療法士である。本講義は、アスリートが招きやすい疾病を起因とした障害や外傷について専門的知識からの評価と治療アプローチを習得する授業である。AC											
〔到達目標〕 ・スポーツ(アスリートが抱える)障害・外傷の発生機序や病態を理解する ・医療的知見から評価・アプローチ方法を理解できる											
〔使用教材、参考文献等〕 ・配布資料 ・スポーツ傷害のリハビリテーション 第2版 (金原出版株式会社)					〔準備学習・時間外学習〕 2・4・6回時は、小テストを行うこととする。そこで学習の復習が出来る様、ポイントを再学習してくることは望ましい。						
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
1	オリエンテーション スポーツ障害・外傷に対する理学療法について				スポーツ外傷/障害の概念や理学療法の一連の流れを理解できる						
2	腰のスポーツ傷害について				スポーツにおける腰部の障害・外傷の種類を理解し、評価方法を理解できる						
3	股関節・鼠径部のスポーツ傷害②				スポーツにおける股関節・鼠径部の障害・外傷の種類を理解し、評価方法を理解できる						
4	膝のスポーツ傷害				スポーツにおける膝関節の障害・外傷の種類を理解し、評価方法を理解できる						
5	下腿・足部のスポーツ傷害				スポーツにおける下腿・足部の障害・外傷の種類を理解し、評価方法を理解できる						
6	肩のスポーツ傷害①				スポーツにおける肩関節の障害・外傷の種類を理解し、評価方法を理解できる						
7	肘・手関節のスポーツ傷害				スポーツにおける肘・手関節の障害・外傷の種類を理解し、評価方法を理解できる						
8	期末テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。						
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
〔評価について〕 評価は筆記試験、小テストで行う。 筆記試験は小テスト（10点×3=30点）、期末テスト（70点）の合計100点で判定し、評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 ハーフパンツやTシャツ等の自らが動きやすい服装であり、かつ触診がしやすい服装で出席のこと。 実際の臨床場面を想定しているため、服装や髪形に留意すること。 スケジュールは変更の場合あり。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3年	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名		多職種連携の理解						樋口 美幸			
				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	15 (1)	授業 回数	8
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
大学病院で神経難病の理学療法に従事した経験のある理学療法士が授業を担当する。医療現場や地域領域で必要となる多職種連携について必要性を理解する。そのために必要な知識と対人スキルを講義および課題から考え身につける。											
〔到達目標〕											
多職種連携について学び、その必要性と必要な心構えと連携技術について説明できるようにする。 多職種連携をベースに臨床場面でのリハビリテーション像をイメージできる。											
〔使用教材、参考文献等〕 講義使用スライド資料											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション 多職種連携とは -視点・理由・連携の形・目標設定-					多職種連携について概要を学ぶ。多職種連携の視点、なぜ必要なのか、その形態と連携の要点を理解する。					
2	連携のための信頼関係					連携のための信頼関係の構築について理解する。					
3	組織内の連携					病院、施設内の組織における連携のために必要な知識を学習し、そのあり方について考える。					
4	専門職としてのPT					専門職としてのPTのあり方の多様性について考える。 関連知識を学ぶ。					
5	医療の質、スペシャリストvsジェネラリスト					専門職として提供すべき医療の質と、連携における専門性を活かす視点を学ぶ。					
6	多職種連携におけるセルフケア、ストレスマネジメント					ストレスが高いとされる医療職のセルフケアについて考える。ストレスとストレスと付き合う方法を学習する。					
7	関係構築のために知る性格気質					ストレスマネジメントを行うために自分のDNA気質を知ろう。ラインケア（他者理解）をする。					
8	筆記テスト（記述）					課題に対する記述筆記試験により、学習到達度を確認し効果判定を行う					
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
〔評価について〕 評価は記述による筆記試験で行う。 筆記試験は100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 講義やグループワークには能動的に参加をすること。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	3年	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名						樋口 美幸			
障がい者支援と理学療法	必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	15 (1)	授業 回数	8	
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
大学病院で神経難病の理学療法に従事した経験のある理学療法士が授業を担当する。地域における障害者支援について、障害者総合支援法等の公的制度と支援サービスの概要を理解する。また障害者支援におけるリハビリテーション専門職としてのあり方について学習し自ら考え行動する力を身につける。									
〔到達目標〕									
障害者支援とリハビリテーションについて学び、その制度とサービス概要を説明できるようにする。 学習した制度理解を元に地域臨床場面での障害者支援リハビリテーションをイメージできる。									
〔使用教材、参考文献等〕									
講義内使用スライド資料									
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション・総論			障害者支援について概要を学ぶ。					
2	ノーマライゼーション・バリアフリー			ノーマライゼーション・エンパワーメント・インクルージョンの理念及びバリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ					
3	地域支援の対象者と地域共生社会			高齢者、障害者、障害児等と共にある社会としての地域共生社会についての知識を学ぶ					
4	障害者総合支援法の制度変遷と制度概要			障害者総合支援法の歴史的変遷と制度の概要を学ぶ。					
5	障害者総合支援法各論（各種サービス内容）			各種サービス内容についての理解を深める。					
6	障害者総合支援法各論（利用者負担・自立支援医療・補装具）			各種サービス内容についての理解を深める。					
7	復習・問題演習			学習内容の要点復習と関連領域含む国家試験問題演習					
8	期末テスト			試験により、学習到達度を確認し効果判定を行う					
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
〔評価について〕			〔特記事項〕						
評価は記述による筆記試験で行う。 筆記試験は100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 講義やグループワークには能動的に参加をすること。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講 区分	前期	担当教員		
授業科目名				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	実技	内堀 昭宜		
理学療法検査・測定法実習Ⅱ								時間数 (単位)	30 (1)	授業 回数
〔授業の学習内容と心構え〕										
担当教員は、長年臨床において様々な患者の評価を行ったきた理学療法士である。本講義において、理学療法を実施する際の検査・測定の進めかたを学び、患者に則した臨床思考過程の能力を身につける。										
〔到達目標〕										
・症例情報を通して、必要な検査・測定項目を列挙できる ・症例情報を通して、必要な検査・測定項目の優先順位を判断できる ・必要な検査・測定項目を効率的に実施できる										
〔使用教材、参考文献等〕 ●「理学療法評価学 改訂第6版」 (金原出版株式会社) ●適宜、プリント配布					〔準備学習・時間外学習〕 ＜準備＞事前課題への積極的な取り組み ＜時間外学習＞クラスメイトからの意見を基に、自分の考えを見直し、効果的な検査・測定が実施できるように振り返る					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	【臨床応用】総論：方法と実践の説明					検査・測定を進めていく際の注意点、優先順位の考え方を説明できる ⇒ [レポート課題]				
2	【臨床応用①-1】運動器疾患 ～疾患の理解と機能障害～					運動器疾患の病態の理解をし、機能障害について説明できる				
3	【臨床応用①-2】運動器疾患 ～検査・測定項目の列挙とその目的～					運動器疾患の病態の理解をし、検査・測定項目を列挙することができる				
4	【臨床応用②-1】脳血管障害 ～疾患の理解と機能障害～					脳血管疾患の病態の理解をし、機能障害について説明できる				
5	【臨床応用②-2】脳血管障害 ～検査・測定項目の列挙とその目的～					脳血管障害の病態の理解をし、検査・測定項目を列挙することができる				
6	【臨床応用③-1】神経・筋疾患 ～疾患の理解と機能障害～					神経・筋疾患の病態の理解をし、機能障害について説明できる				
7	【臨床応用③-2】神経・筋疾患 ～検査・測定項目の列挙とその目的～					神経・筋疾患の病態の理解をし、検査・測定項目を列挙することができる				
8	【臨床応用】 ～グループワークの方法、発表と実践の説明～ 【臨床応用④-1】 ～グループワーク～					対象疾患の病態を理解し、検査・測定項目を列挙することができる ⇒ [レポート課題]				
9	【臨床応用④-2】 ～検査・測定項目と目的の発表と実践～					他者の意見を聞き、自分の意見との相違を理解することができる				
10	【臨床応用⑤-1】 ～グループワーク～					対象疾患の病態を理解し、検査・測定項目を列挙することができる ⇒ [レポート課題]				
11	【臨床応用⑤-2】 ～検査・測定項目と目的の発表と実践～					他者の意見を聞き、自分の意見との相違を理解することができる				
12	【臨床応用⑥-1】 ～グループワーク～					対象疾患の病態を理解し、検査・測定項目を列挙することができる ⇒ [レポート課題]				
13	【臨床応用⑥-2】 ～検査・測定項目と目的の発表と実践～					他者の意見を聞き、自分の意見との相違を理解することができる				
14	【臨床応用】 グループ発表の振り返り 期末試験（レポート課題）の準備					グループワークを通して出てきた傾向を基に、一般的な検査・測定項目の列挙を認識することができる				
15	講義のまとめ 期末試験(レポート課題)の提出					臨床応用の講義を振り返り、自己の変化に気づくことができる				
〔評価について〕 ●発表と質疑応答における授業参加態度 ●確認試験（レポート課題） ●期末試験（レポート課題）					〔特記事項〕 実施予定日・内容は進捗状況により変更する場合がある 配布資料に重要項目は書き込むこと					

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名						田原 和樹			
理学療法検査・測定法実習Ⅱ		必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕									
担当教員は長年、総合病院において様々な疾患に対するリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、臨床実習に向けて疾患の理解を深め、理学療法評価プログラムの優先順位をより実践的に学び、危険予知トレーニングを通して感受性・問題解決能力を身に付けることを目的とする。									
〔到達目標〕									
症例に対する評価項目を挙げることができた上で、優先順位について考える事ができるようになる。 複数の検査測定を正確にできるようになる。疾患及び症状における配慮すべき点を挙げる事ができるようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕									
・配布資料(Teamsにアップロード) ・理学療法評価学									
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1 (4/1)	オリエンテーション／ 疾患①（中枢疾患）における評価項目の抽出及び実施				・各疾患における理解を深め、配慮すべき項目を挙げることができる。 ・患者への配慮を含めて正しく評価を実施することができる。				
2 (4/15)	疾患②（中枢疾患）における評価項目の抽出及び実施				・各疾患における理解を深め、配慮すべき項目を挙げることができる。 ・患者への配慮を含めて正しく評価を実施することができる。				
3 (4/22)	疾患③（中枢疾患）における評価項目の抽出及び実施				・各疾患における理解を深め、配慮すべき項目を挙げることができる。 ・患者への配慮を含めて正しく評価を実施することができる。				
4 (4/29)	疾患④（整形外科疾患）における評価項目の抽出及び実施				・各疾患における理解を深め、配慮すべき項目を挙げることができる。 ・患者への配慮を含めて正しく評価を実施することができる。				
5 (5/13)	疾患⑤（整形外科疾患）における評価項目の抽出及び実施				・各疾患における理解を深め、配慮すべき項目を挙げることができる。 ・患者への配慮を含めて正しく評価を実施することができる。				
6 (5/20)	疾患⑥（整形外科疾患）における評価項目の抽出及び実施				・各疾患における理解を深め、配慮すべき項目を挙げることができる。 ・患者への配慮を含めて正しく評価を実施することができる。				
7 (5/27)	中間テスト				第1～6回までの内容についての筆記試験				
8 (6/3)	疾患⑦（中枢疾患）における評価項目の抽出及び実施				・各疾患における理解を深め、配慮すべき項目を挙げることができる。 ・患者への配慮を含めて正しく評価を解釈することができる。				
9 (6/10)	疾患⑧（内科疾患）における評価項目の抽出及び実施				・各疾患における理解を深め、配慮すべき項目を挙げることができる。 ・患者への配慮を含めて正しく評価を解釈することができる。				
10 (6/17)	疾患⑨（整形外科疾患）における評価項目の抽出及び実施				・各疾患における理解を深め、配慮すべき項目を挙げることができる。 ・患者への配慮を含めて正しく評価を解釈することができる。				
11 (6/24)	疾患⑩（整形外科疾患）における評価項目の抽出及び実施				・各疾患における理解を深め、配慮すべき項目を挙げることができる。 ・患者への配慮を含めて正しく評価を解釈することができる。				
12 (7/1)	期末試験対策				授業を通して学んだ項目の総復習を行い 期末試験対策を実施する。				
13 (7/8)	期末試験対策				授業を通して学んだ項目の総復習を行い 期末試験対策を実施する。				
14 (7/15)	期末試験				1,2限を使用して実技試験を実施し、 科目の理解度を確認する。				
15 (7/22)	振り返り				振り返りを実施し、理解度を深める。				
〔評価について〕			〔特記事項〕						
筆記試験（４０点）と期末試験（６０点）			・PC/タブレットなどのデバイスを持参すること。 ・実技の際は、アクセサリー類を外し身だしなみを整えること。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名								田原 和樹			
理学療法検査・測定法実習Ⅱ				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
担当教員は長年、総合病院において様々な疾患に対するリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、臨床実習に向けて疾患の理解を深め、理学療法評価プログラムの優先順位をより実践的に学び、危険予知トレーニングを通して感受性・問題解決能力を身に付けることを目的とする。											
〔到達目標〕											
臨床実習の向けて基本的なADL動作を復習し、実践的疾患別の介助方法や運動療法、リスク管理を学ぶ。 多く見られる疾患に対する評価項目の選択の考え方を学ぶ レジュメの作成の仕方・デイリーノートの書き方を学ぶ											
〔使用教材、参考文献等〕											
生活環境学テキスト（南江堂）											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	基本動作 寝返りの基本動作 背臥位→伏臥位、背臥位→側臥位)					ねがえりの種類 様々な方法 自立のためのポイント、練習方法を学び実践できる。					
2	基本動作 起き上がりの基本動作					起き上がり～端座位までトレーニング方法、介助方法を学び実践する。					
3	基本動作 立ち上がりの基本動作					立ち上がり動作のトレーニング方法、介助方法を理解し実践する。					
4	基本動作 移乗の基本動作					ベッド～車椅子までの移乗動作 トレーニング方法、介助方法を学び実践する。					
5	疾患別 脳血管疾患の方の 寝返り動作 起き上がり動作 端座位まで					病態を理解し、脳血管障害の方の寝返り～起き上がり～端座位 トレーニング方法、それぞれの介助方法を実践する。					
6	疾患別 脳血管疾患の方の 立ち上がりから移乗動作					脳血管障害の方のトレーニング方法、それぞれの介助方法、を実践する。					
7	疾患別 脳血管疾患の方の 介助歩行、歩行練習					脳血管障害の方の歩行のトレーニング方法、様々な介助方法を実践する。					
8	問診・情報収集項目選択の考え方					理学療法を実施するにあたり、問診の項目、家族、他部署に対してどのような情報を収集するべきかを理解し実践する。					
9	脳血管疾患に対する評価項目選択の考え方					脳血管疾患に対する理学療法時必要とされる評価項目の選択を理解し実践する					
10	変形性関節疾患 人工関節術後の評価項目選択の考え方					変形性関節疾患、人工関節術後に対する理学療法時必要とされる評価項目の選択を理解し実践する					
11	高齢者 サルコペニア・フレイル評価項目選択の考え方					高齢者に対する理学療法時必要とされる評価項目の選択を理解し実践する					
12	神経疾患に対する評価項目選択の考え方					神経疾患に対する理学療法時必要とされる評価項目の選択を理解し実践する					
13	ベッドサイド患者のリスク管理・車いす移乗動作					ベッドサイドで評価や理学療法を行うにあたってのリスク管理を理解し実践する。またウロバックを装着している患者に対する移乗方法を実践する。					
14	症例レポートの書き方					基本的なレジュメの書き方を理解し実際に書けるようにする。					
15	デイリーノートの書き方					実習中必要となるデイリーノートの書き方を理解し実際に書けるようにする。					
〔評価について〕					〔特記事項〕						
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト40%。期末テスト60%の合計100%で評価する。評価は学則規定に準ずる。					毎授業において重要事項については赤字や☆マークにしています。口頭で述べることも多いと思います。下線を引いたりメモをとるようにして下さい。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名						内堀 昭宜			
動作分析法演習		必修・選択	必修	授業形態	演習	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員は、長年臨床において動作分析の臨床と研究に従事してきた理学療法士である。本講義は、理学療法における検査・測定技術の一つである「動作分析」について動作に影響を及ぼす原因を考え、実際の動作分析を通して、動作の特徴を捉え個々の運動要素に分解していく思考過程を身に付ける授業である。

〔到達目標〕

- ・動作にかかわる要因を理解し、異常動作が出現する原因を考察することができる
- ・各疾患の病態との関連性を考え、動作分析することができる

〔使用教材、参考文献等〕

- 「動作分析 臨床活用講座」(MEDICAL VIEW)
- 適宜、プリント配布

〔準備学習・時間外学習〕

- <準備> 日頃から動作の特徴を捉える癖をつける
- <時間外学習> 講義内容と確認試験の振り返りを行い、知識の再確認をする

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	【イントロダクション】 ～臨床における動作分析、動作に関与する機能障害～	臨床における動作分析の重要性と影響を及ぼす機能障害について理解できる
2	【イントロダクション】 ～動作分析に活用するバイオメカニクス～	バイオメカニクスの基本原理(=力学)の基礎を理解できる
3	【寝返り動作】 ～正常動作の理解～	寝返り動作の正常パターンを理解できる
4	【寝返り動作】 ～異常動作の推論①～	寝返り動作に影響を与える要因を推論できる
5	【寝返り動作】 ～異常動作の推論②～	寝返り動作に影響を与える要因を推論できる
6	◆確認試験◆ 【起き上がり動作】 ～正常動作の理解～	起き上がり動作の正常パターンを理解できる
7	◇返却と解説◇ 【起き上がり動作】 ～異常動作の推論①～	起き上がり動作に影響を与える要因を推論できる
8	【起き上がり動作】 ～異常動作の推論②～	起き上がり動作に影響を与える要因を推論できる
9	◆確認試験◆ 【起立・着座動作】 ～正常動作の理解～	起立・着座動作の正常パターンを理解できる
10	◇返却と解説◇ 【起立・着座動作】 ～異常動作の推論①～	起立・着座動作に影響を与える要因を推論できる
11	【起立・着座動作】 ～異常動作の推論②～	起立・着座動作に影響を与える要因を推論できる
12	【歩行動作】 ～正常動作の理解～	歩行動作の正常パターンを理解できる
13	【歩行動作】 ～異常動作の推論①～	歩行動作に影響を与える要因を推論できる
14	◆◆期末試験◆◆ (60分)	試験を通して自分の知識の深さを理解する
15	◇返却と解説◇ 講義のまとめ、振り返り	講義を振り返り、理学療法における動作分析の過程を再考する

〔評価について〕

- 確認試験
- 期末試験

〔特記事項〕

実施予定日・内容は進捗状況により変更する場合がある
配布資料に重要項目は書き込むこと

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名		中嶋 誠									
運動療法学実習Ⅱ（小児）		必修	必修	授業 形態	実技	時間数 (単位)	30 (1)	授業 回数	15		
〔授業の学習内容と心構え〕											
小児リハビリテーション病院で、長年小児疾患の理学療法に従事した経験のある理学療法士が授業を担当する。本講義では、正常発達の評価・脳性麻痺を中心に、現在の小児理学療法における概要を臨床に即して学ぶことを目的とする。また、実技を通じて運動療法に限らず小児疾患に対する理学療法士としての支援方法を身に付ける。□											
〔到達目標〕											
・疾病や障害を抱える子どもに関わる諸問題に関心を持ち、小児理学療法の役割を認識する。 ・子どもと家族に対して、適切な理学療法の提供が行えるよう、小児理学療法の特性、技術、小児期の代表的な疾患や障害について学び、基本的な知識および技能を習得する。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
配布資料					専門用語が多い科目のため、授業後は用語・各疾病の特性を理解するよう復讐をすることが望ましい。						
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
1	・オリエンテーション ・総論・発達学の諸理論				・障害児・者における理学療法士の役割について理解できる。						
2	・正常姿勢反射と運動発達				・運動発達の理論的背景を理解できる。 ・原始反射・姿勢反射について理解できる。						
3	・異常姿勢反射と運動発達障害				・姿勢制御機構の発達と運動機能について理解できる。						
4	・脳性麻痺総論 ・小テスト				・脳性麻痺の特性を理解する。 ・小テストにて姿勢反射の理解を深める						
5	・脳性麻痺に対する理学療法（痙直型）				・脳性麻痺痙直型四肢麻痺・両麻痺の障害の特徴を理解できる。						
6	・脳性麻痺に対する理学療法（アテトーゼ型）				・脳性麻痺アテトーゼ型の障害の特徴を理解できる。						
7	・正常運動発達① ・小テスト				・胎児期・新生児期の正常運動発達を理解できる。 ・小テストにて脳性麻痺についての理解を深める						
8	・正常運動発達②				・胎児期・新生児期から1歳（歩行獲得）までの正常運動発達を理解できる。						
9	・正常発達③ ・発達障害の評価				・下記の評価尺度について解釈することができる。 GMFCS.GMFM.PEDI..WeeFIM						
10	・発達障害について ・小テスト				・発達障害の特性を理解できる。 ・小テストにて正常発達の理解を深める						
11	・知的障害に対する理学療法				・Down症候群の障害の特性を理解できる。						
12	・肢体不自由児に対する理学療法（筋疾患） ・小テスト				・筋ジストロフィー症の障害の特徴を理解できる。 ・小テストにて発達障害についての理解を深める						
13	・肢体不自由児に対する理学療法（整形疾患）				・二分脊椎およびベルテスト病の障害の特性を理解できる。						
14	・重症心身障害児に対する理学療法 ・小テスト(肢体不自由)				・重症心身障害児の障害特性について、呼吸機能およびポジショニングを中心に理解できる。						
15	・期末テスト				・国家試験問題を解く						
〔評価について〕					〔特記事項〕						
小テスト：10×5=50点 期末テスト：50点 ※59点以下を不合格とする。					講義では疾患の特性がイメージしやすいよう、配布資料（写真・動画）を使用しながら解説していく。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名		須藤 久也									
運動療法学実習Ⅱ		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義 実技	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15		
〔授業の学習内容と心構え〕											
担当教員は、長年医療機関において様々な疾患に対するリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、実技を通じて、代表的なスポーツ障害・外傷における評価・治療・予防という一連のプロセスを身に付けることを目的とする。											
〔到達目標〕											
・アスレティックリハビリテーションの過程における理学療法士の役割・専門性について説明できる。 ・3次元動作解析を通じて障害発生メカニズムをバイオメカニクスの視点で捉えることができる。											
〔使用教材、参考文献等〕											
・配布資料（Teamsにアップロード）											
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
1	オリエンテーション スポーツ理学療法学総論 スポーツ外傷の受傷メカニズム（演習）				授業を受ける上での注意点や成績評価について理解する。 スポーツ理学療法の全体像を理解することができる。						
2	3次元動作解析（演習） ランニングのバイオメカニクス				3次元動作分析の方法論について理解する。						
3	グループワーク（3次元動作データの解析） 関節運動の評価（実技）				3次元動作分析の方法論について理解する。						
4	スポーツ障害の発症メカニズム（理論） 関節運動の評価（実技） グループワーク				グループワークを通してデータ分析の手法を理解する。得られたデータから動作と身体機能の関連性を探求する。						
5	関節運動の評価（実技） グループワーク				グループワークを通してデータ分析の手法を理解する。得られたデータから動作と身体機能の関連性を探求する。						
6	関節運動の評価（実技） グループワーク				グループワークを通してデータ分析の手法を理解する。得られたデータから動作と身体機能の関連性を探求する。						
7	グループ課題発表①				グループ発表を通じてスポーツ理学療法におけるクリニカルリーズニングの方法論について理解を深める。						
8	グループ課題発表②				グループ発表を通じてスポーツ理学療法におけるクリニカルリーズニングの方法論について理解を深める。						
9	スポーツ障害の評価と治療①				代表的なスポーツ障害の発症メカニズム・評価・治療・予防方法について理解する。						
10	スポーツ障害の評価と治療②				代表的なスポーツ障害の発症メカニズム・評価・治療・予防方法について理解する。						
11	スポーツ障害の評価と治療③				代表的なスポーツ障害の発症メカニズム・評価・治療・予防方法について理解する。						
12	スポーツ障害の評価と治療④				代表的なスポーツ障害の発症メカニズム・評価・治療・予防方法について理解する。						
13	スポーツ障害の評価と治療⑤				代表的なスポーツ障害の発症メカニズム・評価・治療・予防方法について理解する。						
14	期末テスト対策				前期内容を総復習し、知識を整理することができる。						
15	期末テスト 解説				テストにより授業内容の習熟度を把握する。						
〔評価について〕 グループワークへの取り組み・発表(20点)と、 期末テスト(80点)の計100点で評価を行う。評価 方法は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 ・動きやすい服装で参加すること						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3年	開講 区分	後期	担当教員		
授業科目名				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	樋口 美幸		
運動療法学実習Ⅱ								時間数 (単位)	30 (1)	授業 回数
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）										
大学病院で神経難病の理学療法に従事した経験のある理学療法士が授業を担当する。神経難病といわれる中枢神経疾患や神経・筋疾患の変性疾患、脱髄性疾患などの症状と経過、評価法・治療法を習得する。ALS、筋ジストロフィー、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、ギラン・バレー症候群、多発性硬化症等の疾患について学習する。講義学習内で随時行われる問題演習と中間・期末テストで復習出来る授業構成とする。										
〔到達目標〕										
神経難病の症状・治療について学び、説明できるようにする。 神経難病の症例などを元に臨床場面でのリハビリテーション評価・治療をイメージできる。										
〔使用教材、参考文献等〕										
15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法学（中山書店）										
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション 神経難病（変性疾患）総論・ALS①＋問題演習					変性疾患について概要を学ぶ。ALSの病態、陰性徴候、予後について理解する。				
2	ALS②＋問題演習					ALSのリハビリテーションにおける評価方法・治療を理解する。				
3	筋ジストロフィー①＋問題演習					ディシェンヌ型筋ジストロフィー、ベッカー型、顔面肩甲上腕型、肢帯型、福山型、遠位型、筋強直性など				
4	筋ジストロフィー②＋問題演習					筋ジストロフィー症の評価、治療について理解する。				
5	多発性筋炎・皮膚筋炎					多発性筋炎・皮膚筋炎について病態・症状とリハビリテーションを理解する。				
6	パーキンソン病①＋問題演習					錐体外路徴候、大脳基底核の機能、PDの病態・症状について理解する。				
7	パーキンソン病②＋問題演習					PD症状各論、症状のメカニズム、逆説動作、PDのリハビリテーション治療、予後、ADL指導について理解する。				
8	中間テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9	小脳性疾患 脊髄小脳変性症の病態・評価・治療＋問題演習					小脳の機能、脊髄小脳変性症の病態と症状を理解する				
10	多系統萎縮症に対する病態・評価・治療＋問題演習 小テスト					オリブ橋小脳萎縮症、線条体黒質変性症、シャイ・ドレーガー症候群について学ぶ				
11	運動失調に対する治療＋問題演習					運動失調症状の評価法、理学療法の種類（フレンケル体操等）について理解する。				
12	ギラン・バレー症候群＋問題演習					ギラン・バレー症候群の病態、評価、治療について理解する				
13	多発性硬化症の病態・評価・治療＋問題演習					多発性硬化症の病態・評価・治療について理解する。				
14	重症筋無力症の病態・評価・治療＋問題演習					重症筋無力症の病態・評価・治療について理解する。				
15	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕					〔特記事項〕					
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 （授業スライド資料は穴埋め記入部分あり。）必要に応じ予め印刷をしたり、タブレット等で記入できるように準備をしておくこと。					

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	3	開講 区分	後期	担当教員 桜井 徹也			
授業科目名		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	実技	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
運動療法学実習Ⅱ									

〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

担当教員は、長年、整形外科クリニックにおいて整形外科疾患に対するリハビリの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、筋骨格系の運動器疾患に対する評価を学び、統合と解釈を学ぶことである。また、評価・治療的アプローチを実技を通じて学び、臨床現場でも実践できる技術を身に付けることも目的とする。

〔到達目標〕

筋肉・骨格系の解剖学的理解が出来、各関節の特徴を把握することができる。
筋骨格系の運動器疾患の特徴と病態を理解したうえで理学療法的評価と治療的アプローチを実施する事ができる。

〔使用教材、参考文献等〕

整形外科運動療法ナビゲーション 改訂第2版 MEDICAL VIEW
筋骨格系のキネシオロジー 第2版 医歯薬出版株式会社
運動療法のための機能解剖学的触診技術 改訂第2版

〔準備学習・時間外学習〕

4・9・12回時は、小テストを行うこととする。
そこで学習の復習が出来る様、
ポイントを再学習してくれることは望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	変形性膝関節症に対する運動療法①	変形性膝関節症における保存療法の一連の流れを理解できる
2	変形性膝関節症に対する運動療法②	変形性膝関節症における保存療法の一連の流れを理解できる
3	人工膝関節全置換術後の運動療法①	人工膝関節全置換術後早期における理学療法の一連の流れを理解できる
4	小テスト/人工膝関節全置換術後の運動療法②	人工膝関節全置換術後、退院時における理学療法の一連の流れを理解できる
5	人工膝関節全置換術後の運動療法③	人工膝関節全置換術後早期における理学療法の一連の流れを理解できる
6	前十字靱帯再建術後の運動療法①	前十字靱帯再建術後全荷重開始までの理学療法の一連の流れを理解できる
7	前十字靱帯再建術後の運動療法②	前十字靱帯再建術後ランニング開始までの理学療法の一連の流れを理解できる
8	前十字靱帯再建術後の運動療法③	前十字靱帯再建術後競技復帰を目指した理学療法の一連の流れを理解できる
9	変形性股関節症に対する運動療法①	変形性股関節症における保存療法の一連の流れを理解できる
10	変形性股関節症に対する運動療法②	変形性股関節症における保存療法の一連の流れを理解できる
11	変形性股関節症に対する人工股関節置換術後の運動療法①	人工股関節置換術後の理学療法の一連の流れを理解できる
12	小テスト 変形性股関節症に対する人工股関節置換術後の運動療法②	人工股関節置換術後の理学療法の一連の流れを理解できる
13	大腿骨頸部骨折に対する骨接合術後の運動療法	大腿骨頸部骨折に対する骨接合術後の理学療法の一連の流れを理解できる
14	大腿骨頸部骨折に対する人工骨頭置換術後の運動療法	大腿骨頸部骨折に対する人工骨頭置換術後の理学療法の一連の流れを理解できる
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は筆記試験、小テストで行う。
成績は小テスト（10点×3＝30点）、期末テスト（70点）の合計100点で判定し、評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

ハーフパンツやTシャツ等の自らが動きやすい服装であり、かつ触診がしやすい服装で出席のこと。実際の臨床場面を想定しているため、服装や髪形に留意すること。

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講 区分	前期	担当教員		
授業科目名		桜井 徹也								
疾患別理学療法学実習Ⅰ（脊損）		必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15	
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する） 担当教員は、長年、整形外科クリニックにおいて整形外科疾患に対するリハビリの実践に携わってきた理学療法士である。本講義において、筋骨格系の運動器疾患に対する評価・治療アプローチを学び、患者に対して実践できることを目的とする。										
〔到達目標〕 筋肉・骨格系の解剖学的理解が出来、各関節の特徴を把握することができる。 筋骨格系の運動器疾患の特徴と病態を理解したうえで理学療法的評価と治療的アプローチを実施する事ができる。 脊髄損傷に対する病態について理解できる										
〔使用教材、参考文献等〕 運動療法のための機能解剖学的触診技術 改訂第2版 理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ					〔準備学習・時間外学習〕 4・9・12回時は、小テストを行うこととする。そこで学習の復習が出来る様、ポイントを再学習してくることは望ましい。					
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション 筋骨格系疾患に対する理学療法について				整形疾患における理学療法の一連の流れを理解できる					
2	腰部疾患に対する理学療法について				腰部周辺の運動学・解剖学について理解できる 腰部疾患における病態について理解できる					
3	股関節疾患に対する理学療法について 関節可動域制限の基本概念について				股関節周辺の運動学・解剖学について理解できる 股関節疾患における病態について理解できる					
4	小テスト①/膝疾患に対する理学療法について				膝関節周辺の運動学・解剖学について理解できる 膝疾患における病態について理解できる					
5	足部・足関節疾患に対する理学療法について				足関節・足部周辺の運動学・解剖学を理解できる 足関節・足部疾患における病態について理解できる					
6	肩疾患に対する理学療法について				肩関節周辺の運動学・解剖学について理解できる 肩疾患における病態について理解できる					
7	頸部疾患に対する理学療法について				頸部周辺の運動学・解剖学について理解できる 頸部疾患における病態について理解できる					
8	脊髄損傷の理学療法① ～疾患の病態について、症候・障害について、医学的検査について～				脊髄損傷の病態や症候・障害、医学的検査について理解する					
9	小テスト②/脊髄損傷の理学療法② ～理学療法評価について～				脊髄損傷に対する理学療法士としての評価について理解する					
10	脊髄損傷の理学療法③ ～急性期の理学療法動作分析～				急性期における脊髄損傷患者の動作分析のことを理解する					
11	脊髄損傷の理学療法④ ～回復期の動作分析～				回復期における脊髄損傷患者の動作分析のことを理解する					
12	小テスト③/脊髄損傷の理学療法⑤ ～回復期（基本動作：寝返り・起き上がり、座位バランスなど）～				脊髄損傷におけるアプローチ方法を理解する					
13	脊髄損傷の理学療法⑥ ～回復期の理学療法（基本動作：移乗、車椅子操作、立位など）～				脊髄損傷におけるアプローチ方法を理解する					
14	脊髄損傷の理学療法⑦ ～生活機能の向上と社会参加～				脊髄損傷患者の生活機能の向上と社会参加について学ぶ					
15	期末テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験、小テストで行う。 筆記試験は小テスト（10点×3=30点）、期末テスト（70点）の合計100点で判定し、評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 ハーフパンツやTシャツ等の自らが動きやすい服装であり、かつ触診がしやすい服装で出席のこと。 実際の臨床場面を想定しているため、服装や髪形に留意すること。					

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法学科Ⅰ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								室井 大佑			
疾患別理学療法学実習Ⅱ				必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
脳血管障害の理学療法に長年携わっていた理学療法士が授業を担当する。脳血管障害に対する基本的な理学療法の進め方（一般的評価、理学療法のための目的ならびに具体的方法、リスク管理）について学修する。専門科目である解剖学・生理学の神経系の構造と機能等を復習しておくこと。											
〔到達目標〕											
脳血管障害の病態・評価・リハビリテーションの実際について学ぶ 脳血管障害後片麻痺患者に対する基本的な運動療法を習得する											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
最新理学療法講座 中枢神経系理学療法学					準備学習1時間（シラバスに従ってテキストを読んでおく） 時間外学習1時間（ノートまとめ）						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	中枢系理学療法の基礎的知識					中枢系理学療法の基礎的知識を理解できる					
2	脳損傷の定義および病態					脳損傷の定義および病態を理解できる					
3	運動・感覚の中枢機能と構造 小テスト					運動・感覚の中枢機能と構造を理解できる					
4	脳損傷とその回復過程					脳損傷とその回復過程を理解できる					
5	脳血管障害における医学的管理					脳血管障害における医学的管理を理解できる					
6	脳卒中に対するリハビリテーションの流れ、片麻痺患者の運動障害の特徴					脳卒中に対するリハビリテーションの流れと片麻痺患者の運動障害の特徴を理解できる					
7	片麻痺に対する評価方法(1) impairment					片麻痺に対する評価方法を理解できる					
8	片麻痺に対する評価方法 実習					片麻痺に対する評価方法を身に付ける					
9	片麻痺に対する評価方法(2) activity limitation 小テスト					片麻痺に対する評価方法を理解できる					
10	片麻痺患者に対する運動療法（1）課題指向型					片麻痺患者に対する運動療法（1）課題指向型を理解できる					
11	片麻痺患者に対する運動療法（2）座位・立位 実習					片麻痺患者に対する運動療法（2）座位・立位を理解できる					
12	片麻痺患者に対する運動療法（3）歩行 小テスト					片麻痺患者に対する運動療法（3）歩行を理解できる					
13	第1-12回まとめ					第1-12回まとめ					
14	期末テスト					期末テスト					
15	テスト返却及びテスト振り返り、神経系リハビリテーション最前線					テスト返却及びテスト振り返り、神経系リハビリテーションの最前線を知る					
〔評価について〕					〔特記事項〕						
合格基準は学校基準に準ずる 小テスト40点/期末テスト60点											

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名		谷地 直樹									
疾患別理学療法学実習Ⅱ				必修	必修	授業 形態	実習	時間数 (単位)	30 (1)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのか具体的に記載する）											
担当教員は、総合病院で内科・循環疾患の理学療法に長年携わってきた理学療法士である。内部障害系の疾患は増加の一途をたどっており、割合に関しては骨関節疾患、中枢神経疾患を大きく上回っている。高齢社会に伴い多種の疾患、病態が混合している事が多く骨関節疾患、中枢神経疾患においても内部障害が合併している事が多い。理学療法士が内部障害に対して介入する意義は大きくエビデンスレベルも高い。本講義では内部障害の疾患、病態理解、リスク管理、どのように理学療法を実施していくのかを学び理解してほしい。											
〔到達目標〕											
・内部障害の疾患及び病態を理解出来る。 ・内部障害に対する理学療法の目的について理解出来る。 ・内部障害に対する理学療法の評価、リスク管理、運動療法の実施方法を理解出来る。											
参考テキスト：内部障害の理学療法学テキスト(南江堂)											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション（自己紹介、内部障害の理学療法って？） Ⅰ-1：内部障害とは（酸素運搬系と廃用性変化について）					酸素運搬系のメカニズムを理解出来る。					
2	Ⅰ-2：心臓疾患と病態理解、不整脈について （心不全について、正常な心リズム、異常な心リズム）					心臓の疾患と病態について考えられるようになる。 正常な心リズム、異常な心リズムついて理解出来る。					
3	Ⅰ-3：運動耐容能について （運動負荷試験の種類、内容について）					適切な運動負荷試験について理解出来る。					
4	Ⅰ-4：心臓疾患の理学療法プログラム 小テスト10問（計20分 10分テスト、10分解説）					心筋梗塞、心不全に対する理学療法を知る。 Ⅰ項目の効果判定テストを行う。					
5	Ⅰ-5：心臓リハビリテーションとバイタルアセスメント					心臓リハビリテーションの目的について理解できる。 バイタルの繋がりについて理解できる。					
6	Ⅱ-1：換気と酸化障害 （換気障害と酸化障害について）					換気障害と酸化障害について理解出来る。					
7	Ⅱ-2：慢性閉塞性肺疾患と拘束性肺疾患の理学療法 （病態と理学療法について） 小テスト10問（計20分 10分テスト、10分解説）					慢性閉塞性肺疾患と拘束性肺疾患の病態と違い、理学療法介入について理解出来る。 Ⅱ項目の効果判定テストを行う。					
8	Ⅲ-1：運動と代謝性疾患 （糖尿病の治療と合併症について）					糖尿病の治療と合併症による弊害について理解出来る。					
9	Ⅲ-2：糖尿病の理学療法 （糖尿病の運動療法と足病変について）					糖尿病に対する運動療法について理解出来る。					
10	Ⅲ-3：腎臓リハビリテーションについて 小テスト10問（計20分 10分テスト、10分解説）					腎臓リハビリテーションについて理解出来る。 Ⅲ項目の効果判定テストを行う。					
11	Ⅳ-1：がん理学療法について （がん治療、リハビリテーションについて）					がん治療について知る。がん患者のリハビリテーションの目的、目標の理解出来る。					
12	Ⅳ-2：がん理学療法について （化学療法、癌外科術後の理学療法介入について）					化学療法後、外科術後理学療法について理解出来る。 がん患者に対するリスク管理を理解出来る。					
13	Ⅳ-3：患者教育と行動変容について（グループワーク） 小テスト10問（計20分 10分テスト、10分解説）					患者教育と行動変容のアプローチについて理解出来る。 Ⅳ項目の効果判定テストを行う。					
14	Ⅰ～Ⅳの期末テスト 期末テストの解説					まとめのテストを行い理解度の効果判定を行う。					
15	テスト解説、集中治療室の理学療法について （早期リハビリテーションの重要性、PICS、ICU-AW）					期末テストの解説と集中治療室の理学療法を学ぶ。					
〔評価について〕					〔特記事項〕						
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト40%。期末テスト60%の合計100%で評価する。評価は学則規定に準ずる。					毎授業において重要事項については赤字や☆マークにしています。口頭で述べることも多いと思います。下線を引いたりメモをとるようにして下さい。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名								内堀 昭宜			
疾患別理学療法実習Ⅱ（呼吸）				必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数（単位）	30（1）	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
担当教員は、長年臨床において呼吸器疾患の治療に携わってきた理学療法士である。本講義は、呼吸器に関する解剖学・生理学的な基本知識を整理し、呼吸機能の評価、問題点抽出、治療到達目標設定と運動療法のプログラム作成、リスク管理などについて講義および実習を行う。											
〔到達目標〕											
呼吸器系に関連する領域の基礎知識を広く理解し、それぞれの疾患に対応した理学療法の評価と治療法の基本を身につけることである。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
●「動画でわかる呼吸リハビリテーション第5版」（中山書店）					<準備・内容>キーワードの事前調査						
●その他、適宜資料配布					<準備・実技>方法の確認と身体の使い方のイメージング						
					<時間外学習>当日授業の振り返りと小テスト対策						
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
1	【総論】 呼吸リハビリテーション，呼吸理学療法				①呼吸リハビリテーション・理学療法の概要，②呼吸リハビリテーションの有用性・リスクを説明できる						
2	【復習・確認①】 呼吸器に関わる基礎知識（解剖・運動・生理）				呼吸器の構造を理解し，酸素運搬過程での呼吸・循環反応の関係を説明できる						
3	【復習・確認②】 呼吸器に関わる基礎知識（解剖・運動・生理）				呼吸調整のメカニズム，呼吸運動に伴う胸郭運動を説明できる						
4	【病態と疾患】 呼吸不全／閉塞性換気障害，拘束性換気障害				各病態の違いおよび症状を説明できる						
5	【検査・測定①】 フィジカルアセスメント<視診・触診・打診・聴診>				フィジカルアセスメントの重要性を理解し，各項目が実践できる						
6	【検査・測定②】 呼吸機能，血ガス分析				①呼吸機能の検査方法および結果の解釈，②動脈血液ガスの指標と正常値が説明できる						
7	【検査・測定③】 画像所見，呼吸困難感，運動耐容能，他				呼吸に関連する各種検査方法，結果の解釈が説明／実践できる						
8	【呼吸PT①】 ～コンディショニング～ ポジショニング，呼吸介助				姿勢が呼吸に与える影響を説明できる						
9	【呼吸PT②】 ～コンディショニング～ 呼吸練習，胸郭可動域運動，排痰法				コンディショニングの重要性を理解し，各方法を実践できる						
10	【呼吸PT③】 運動療法				①効果的な方法を指導・実践できる， ②運動療法の目的や効果が説明でき，指導できる						
11	【呼吸リハビリテーション介入方法】 酸素療法／人工呼吸療法／栄養療法／薬物療法				各介入方法の効果や目的，リスク管理を説明できる						
12	【日常生活動作】 日常生活動作の評価，指導・工夫を考える				①評価方法を説明できる，②ADL動作の原則・指導ポイント・安全な方法を説明できる						
13	【呼吸リハビリテーション介入方法】 喀痰吸引				吸引の目的，リスク管理，方法を説明できる						
14	★期末試験★（60分）				試験を通して自分の知識の深さを理解する						
15	☆返却と解説☆ case study ～対応方法を考える～				case studyを通じて，症状の対処方法を実践できる						
〔評価について〕					〔特記事項〕						
●確認試験 40点					実施予定日・内容は進捗状況により変更する場合がある						
●期末試験 60点											

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法学科Ⅰ部		学年	3	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名								室井 大佑			
疾患別理学療法学実習Ⅱ				必修/ 選択	必修	授業 形態	実技	時間数 (単位)	30 (1)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
脳血管障害の理学療法に長年携わっていた理学療法士が授業を担当する。神経障害を生じる代表的疾患に対する基本的な理学療法の進め方（一般的評価、理学療法の目的ならびに具体的方法、リスク管理）について学修する。専門科目である解剖学・生理学の神経系の構造と機能等を復習しておくこと。											
〔到達目標〕											
小脳・脳幹障害の病態・評価・リハビリテーションの実際について学ぶ 脳血管障害後の合併症、高次脳機能障害について学び、ICFに基づいた臨床推論、プログラムの立案ができる											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
最新理学療法講座 中枢神経系理学療法学					準備学習1時間（シラバスに従ってテキストを読んでおく） 時間外学習1時間（ノートまとめ）						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	片麻痺患者に対する予後予測					片麻痺患者に対する予後予測を理解できる					
2	脳血管障害の上肢機能と合併症					脳血管障害の上肢機能と合併症を理解できる					
3	脳血管障害の合併症（嚥下、栄養障害） 小テスト					脳血管障害の合併症を理解できる					
4	高次脳機能障害に対する理学療法					高次脳機能障害に対する理学療法を理解できる					
5	高次脳機能障害に対する理学療法の実際：症例検討					高次脳機能障害に対する症例検討を理解できる					
6	脳の構造・機能（小脳、脳幹）、運動失調の病態 小テスト					脳の構造・機能（小脳、脳幹）、運動失調の病態を理解できる					
7	運動失調に対する評価とプログラムの実際：実習					運動失調に対する評価とプログラムを身に付ける					
8	小脳障害症例に対する症例検討：実習					小脳障害に対するICF、プログラム立案ができる					
9	頭部外傷・脳腫瘍の病態 小テスト					頭部外傷・脳腫瘍の病態を理解する					
10	頭部外傷・脳腫瘍のリハビリテーション					片麻痺患者に対する運動療法を身に付ける					
11	脳卒中治療ガイドライン					脳卒中治療ガイドラインを理解できる					
12	認知神経科学にも基づくリハビリテーション 小テスト					認知神経科学に基づくり理学療法を理解する					
13	第1-12回まとめ					第1-12回まとめ					
14	期末テスト					期末テスト					
15	テスト返却及びテスト振り返り、神経系理学療法の現状と未来					テスト返却及びテスト振り返り、神経系理学療法の現状と未来を知る					
〔評価について〕					〔特記事項〕						
合格基準は学校基準に準ずる 小テスト40点/期末テスト60点											

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名						及川 広太			
実習教育Ⅱ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕									
担当教員は長年、総合病院において様々な疾患に対するリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、臨床実習に向けて文献検索等を行うことで症例情報を整理し、臨床推論を理解し身に付けることを目的とする。そして、グループ課題作成を通じて、論理的思考能力および文章構成能力を養う。									
〔到達目標〕									
・活動制限および機能障害の原因について仮説を列挙することができる。 ・先行文献や論文によって自身の仮説をサポートすることができる。									
〔使用教材、参考文献等〕									
・理学療法評価学 改訂第6版 ・配布資料(Teamsにアップロード)									
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1 (4/1)	オリエンテーション 症例問題① 症例提示 課題レポート作成 1				・授業を受ける上での注意点や成績評価について理解する。 ・運動器疾患における、活動制限および機能障害の原因について仮説を挙げ、その根拠を文献によってサポートすることができる。				
2 (4/15)	課題レポート作成 2 文献検索の方法 論理的思考法のフレームワーク				・運動器疾患における、活動制限および機能障害の原因について仮説を挙げ、その根拠を文献によってサポートすることができる。				
3 (4/22)	症例問題① 解説 症例問題② 症例提示 個人ワーク				・運動器疾患における、活動制限および機能障害の原因について仮説を列挙することができる。				
4 (4/29)	症例問題② 課題レポート作成 3				・運動器疾患における、活動制限および機能障害の原因について仮説を列挙することができる。				
5 (5/13)	課題問題② 解説 症例問題③ 症例提示								
6 (5/20)	症例問題③ 課題レポート作成 4				・運動器疾患における、活動制限および機能障害の原因について仮説を列挙することができる。				
7 (5/27)	課題問題③ 解説 症例問題④ 症例提示				・運動器疾患における、活動制限および機能障害の原因について仮説を列挙することができる。				
8 (6/3)	症例問題④ 症例提示 課題レポート作成 5				・脳血管疾患における、活動制限および機能障害の原因について仮説を列挙することができる。				
9 (6/10)	症例問題④ 解説 症例問題⑤ 症例提示 課題レポート作成 6				・脳血管疾患における、活動制限および機能障害の原因について仮説を列挙することができる。				
10 (6/17)	症例問題⑤ 解説 学習ポートフォリオ☑				・脳血管疾患における、活動制限および機能障害の原因について仮説を列挙することができる。				
11 (6/24)	プレゼン準備				・批判的思考能力およびプレゼンテーション能力を身につける。				
12 (7/1)	プレゼン準備				・批判的思考能力およびプレゼンテーション能力を身につける。				
13 (7/8)	プレゼンテーション①				・批判的思考能力およびプレゼンテーション能力を身につける。				
14 (7/22)	プレゼンテーション②				・批判的思考能力およびプレゼンテーション能力を身につける。				
15 (7/29)	プレゼンテーション③				・批判的思考能力およびプレゼンテーション能力を身につける。				
〔評価について〕 課題レポート30点(各5点×6回)、学習ポートフォリオ20点、プレゼンテーション50点の計100点で評価を行う。評価方法は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 ・PC/タブレットなどのデバイスを持参すること。					

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講 区分	後期	担当教員		
授業科目名		及川 広太								
実習教育Ⅱ		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15	
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する） 担当教員は長年、総合病院において様々な疾患に対するリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、臨床実習に向けて文献検索等を行うことで症例情報を整理し、臨床推論を理解し身に付けることを目的とする。そして、グループ課題作成を通じて、論理的思考能力および文章構成能力を養う。										
〔到達目標〕 実習に出る、社会参加を行うことに関して意識付ける。 医療人としてのマナーを身に着ける。 自身の課題を新たにみつける。										
〔使用教材、参考文献等〕										
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション				本授業の内容説明					
2	肩関節周囲炎 発表				肩関節周囲炎の治療プログラム立案					
3	上腕骨近位端骨折 グループワーク				上腕骨近位端骨折の治療プログラム立案					
4	上腕骨近位端骨折 発表				発表					
5	変形性膝関節症 グループワーク				変形性膝関節症の治療プログラム立案					
6	変形性膝関節症 発表				発表					
7	脳梗塞 グループワーク				脳梗塞の治療プログラム立案					
8	脳梗塞 発表				発表					
9	視床出血 グループワーク				視床出血の治療プログラム立案					
10	視床出血 発表				発表					
11	疾患に対する基礎理解（内部障害）				内部障害についての基礎理解応用					
12	疾患に対する基礎理解（整形疾患編）				整形疾患に対しての基礎を理解する					
13	疾患に対する基礎理解（脳卒中編）				脳卒中に関しての基礎を理解する。					
14	実習前教育				実習前に必要な知識を再確認する					
15	実習前教育				実習についてのポイント					
〔評価について〕 評価は授業中の発表に基づく資料や発表。 授業内態度などを総合して判断を行う。				〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリント、資料の配信による授業を行なう。						

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名		田原 和樹									
総合演習Ⅰ		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義 実技	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15		
〔授業の学習内容と心構え〕											
担当教員は長年、総合病院において様々な疾患に対するリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、これまでの学習や演習を振り返りながら、臨床と基礎医学系科目を関連付けて学習し身に付けることを目的とする。											
〔到達目標〕											
国試演習を通じて3年次までに学習した知識を整理することができる。また、学習アプリMonoxerを活用しながら、個々人に最適な学び方を確立することができる。											
〔使用教材、参考文献等〕											
・配布資料（Teamsにアップロード）											
回	日にち	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)						
1	2024/4/5	授業オリエンテーション 国試演習			・ 授業の目的、評価基準を理解することができる。 ・ 国試演習を通じて知識の整理を行う。						
2	2024/4/12	国試演習			国試演習を通じて3年次までに学習した知識を整理することができる。						
3	2024/4/19	第1回小テスト / 国試演習			国試演習を通じて3年次までに学習した知識を整理することができる。						
4	2024/4/26	国試演習			国試演習を通じて3年次までに学習した知識を整理することができる。						
5	2024/5/10	国試演習			国試演習を通じて3年次までに学習した知識を整理することができる。						
6	2024/5/17	第2回小テスト / 国試演習			国試演習を通じて3年次までに学習した知識を整理することができる。						
7	2024/5/24	国試演習			国試演習を通じて3年次までに学習した知識を整理することができる。						
8	2024/5/31	第3回小テスト / 国試演習			国試演習を通じて3年次までに学習した知識を整理することができる。						
9	2024/6/7	国試演習			国試演習を通じて3年次までに学習した知識を整理することができる。						
10	2024/6/14	第4回小テスト / 国試演習			国試演習を通じて3年次までに学習した知識を整理することができる。						
11	2024/6/21	国試演習			国試演習を通じて3年次までに学習した知識を整理することができる。						
12	2024/6/28	第5回小テスト / 期末試験対策			国試演習を通じて3年次までに学習した知識を整理することができる。						
13	2024/7/5	総復習			授業内容を総復習し、知識を整理することができる。						
14	2024/7/12	期末試験対策			授業内容を総復習し、知識を整理することができる。						
15	2024/7/19	期末試験 解説			テストにより授業内容の習熟度を把握する。						
〔評価について〕				〔特記事項〕							
小テスト（50点：10点×5回）、期末試験（50点）で評価を行う。 評価方法は学則規定に準ずる。				・ 自学習で使用している用具、PCやタブレットなどのデバイスを持参すること。							

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名								関口 康平			
総合演習Ⅰ				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕											
理学療法士として現場で地域住民の健康増進に貢献している教員が、理学療法においての内科及び、神経内科においてリスク管理や内部障害・神経障害に対する知識を習得する授業を行なう。 臨床で見る機会のある内部障害を意識し、他疾患と併用して考えながら受講してほしい。 座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んでほしい。											
〔到達目標〕											
内部障害と理学療法のつながりを考えられるようになる。 疾患と基礎知識をつなげて考えられるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
過去の国家試験問題 Teamsで提示する配布資料						毎回の小テストを振り返りとして実施をする。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	・オリエンテーション ・生理検査の見方					骨の国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
2	・心臓と心不全について					関節の国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
3	・心臓と心不全について					筋の国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
4	・心不全及びレントゲンの見方について					肩甲骨および肩関節の運動学の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
5	・閉塞性動脈硬化症について					肘関節の運動学の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
6	・閉塞性動脈硬化症について					手関節の運動学の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
7	・他の内部障害					第1～6回の内容を、Teamsを用いた試験により効果判定 を行い、理解度を深める。					
8	中間テスト 解説					股関節の運動学の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
9	・他の内部障害					膝関節の運動学の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
10	・他の内部障害					足関節の運動学の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
11	・他の内部障害					頸部・体幹の運動学の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
12	・他の内部障害					顔面筋・体表解剖の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
13	・他の内部障害					姿勢の運動学の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
14	・他の内部障害					運動学習の運動学の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
15	期末テスト 解説					第8～14回の内容を、Teamsを用いた試験により効果判 定を行い、理解度を深める。					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間テスト(50点)と期末テスト(50点) の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ず る。						毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを とること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名								水梨		将宏	
総合演習Ⅰ				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕											
・回復期リハビリ病院にて、在宅復帰に向けたADLの向上に取り組む理学療法士として日々従事している。 ・今まで学んできた運動学や日常生活動作学の知識を発展させ、実際の日常生活動作の問題を評価・治療につなげられることを目標とする。 ・実技と他者への説明に時間を多く割くことで、学んだ知識の理解と整理に努めてもらう取り組みを重視する。											
〔到達目標〕											
・動作観察および動作分析の説明および解釈が行えることを目標とする。 ・疾患別における日常生活動作の問題について、理解・説明できることを目標とする。 ・日常生活動作における理学療法評価の習得を目標とする。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
日常生活動作学の教科書 Teamsで提示する配布資料					小テストを授業終了後に各自で振り返りとして実施をする。						
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
1	ADLの概念				ADLの概念、ICIDHとICF、QOLの用語の説明ができる。						
2	ADLの運動学的分析 ①				静力学、運動力学の用語が説明ができる。						
3	ADLの運動学的分析 ②				運動力学的分析について説明ができる。						
4	基本動作の運動学的分析（寝返り）				寝返りの運動学的分析が説明できる。						
5	基本動作の運動学的分析（起き上がり）				起き上がりの運動学的分析が説明できる。						
6	基本動作の運動学的分析（立ち上がり）				立ち上がりの運動学的分析が説明できる。						
7	中間試験				第1～6回の内容を、Teamsを用いた試験により効果判定を行い、理解度を深める。						
8	ADLを支援する機器（歩行補助具）				各歩行補助具の特徴について説明ができる。						
9	ADLを支援する機器（歩行補助具）②				各歩行補助具を用いた介助ができる。						
10	筋骨格系障害に対するADL能力低下				筋骨格系障害に対するADL能力低下の要因とその対策について説明ができる。						
11	関節リウマチに対するADL能力低下				関節リウマチに対するADL能力低下の要因とその対策について説明ができる。						
12	股関節術後に対するADL能力低下				股関節術後に対するADL能力低下の要因とその対策について説明ができる。						
13	膝関節術後に対するADL能力低下				膝関節術後に対するADL能力低下の要因とその対策について説明ができる。						
14	股関節・膝関節の術後の歩行能力低下				股関節・膝関節の術後の歩行能力低下の要因とその対策について説明ができる。						
15	期末試験				第8～14回の内容を、Teamsを用いた試験により効果判定を行い、理解度を深める。						
〔評価について〕					〔特記事項〕						
・ 中間試験（計40点）、期末試験（計40点）、 毎回の小テスト（計20点）の3合計100点で評価する。 ・ 評価方式はTeamsを用いた試験とする。					特に無し						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名				必修・選択	必修	授業形態	講義	水梨	将宏		
総合演習Ⅰ								時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕											
・回復期リハ病院にて、在宅復帰に向けたADLの向上に取り組む理学療法士として日々従事している。 ・今まで学んできた運動学の知識を元に、実際の歩行分析の評価につなげられることを目標とする。 ・評価実習前にもなるため、発言の場を設けることで、学んできたことを表出する取り組みを重視する。											
〔到達目標〕											
・歩行周期の理解及び歩行時の重心移動制御の理解を目標とする。 ・歩行観察に必要な検査の理解をを目標とする。 ・歩行分析のトレーニングを積むことで歩行分析に慣れることを目標とする。											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
Teamsで提示する配布資料						毎回の小テストを振り返りとして実施をする。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	正常歩行の理解 ①					歩行周期の理解					
2	正常歩行の理解 ②					歩行周期の筋活動の理解					
3	正常歩行の理解 ③					歩行周期の重心移動の理解					
4	正常歩行の理解 ④					歩行周期の重心移動制御の理解					
5	歩行分析の診かた ①					歩行分析の原因追及の考え方を理解。					
6	歩行分析の診かた ②					歩行検査値の理解。					
7	中間試験					第1～3回の内容を、筆記試験により効果判定を行い、理解度を深める。					
8	歩行分析の実際 ①					歩行分析発表を通じて歩行分析に慣れる。 発表準備					
9	歩行分析の実際 ②					歩行分析発表を通じて歩行分析に慣れる。 発表準備					
10	歩行分析の実際 ③					歩行分析発表を通じて歩行分析に慣れる。 発表①					
11	歩行分析の実際 ④					歩行分析発表を通じて歩行分析に慣れる。 発表②					
12	歩行分析の実際 ⑤					歩行分析発表を通じて歩行分析に慣れる。 発表準備					
13	歩行分析の実際 ⑥					歩行分析発表を通じて歩行分析に慣れる。 発表2回目①					
14	歩行分析の実際 ⑦					歩行分析発表を通じて歩行分析に慣れる。 発表2回目②					
15	期末試験					第4～6回の内容を、筆記試験により効果判定を行い、理解度を深める。					
〔評価について〕 ・毎回の小テスト（計20点）、中間試験（計40点）、期末試験（計40点）の3つの合計100点で評価する。 ・評価方式は筆記試験とする。						〔特記事項〕					

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名								関口 康平			
総合演習Ⅰ				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕											
理学療法士として現場で地域住民の健康増進に貢献している教員が、理学療法における内科及び、神経内科においてリスク管理や内部障害・神経障害に対する知識を習得する授業を行なう。 臨床で見る機会のある内部障害を意識し、他疾患と併用して考えながら受講してほしい。 座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んでほしい。											
〔到達目標〕											
内部障害と理学療法のつながりを考えられるようになる。 疾患と基礎知識をつなげて考えられるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
過去の国家試験問題 Teamsで提示する配布資料						毎回の小テストを振り返りとして実施をする。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	・オリエンテーション ・生理検査の見方					骨の国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
2	・心臓と心不全について					関節の国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
3	・心臓と心不全について					筋の国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
4	・心不全及びレントゲンの見方について					肩甲骨および肩関節の運動学の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
5	・閉塞性動脈硬化症について					肘関節の運動学の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
6	・閉塞性動脈硬化症について					手関節の運動学の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
7	・他の内部障害					第1～6回の内容を、Teamsを用いた試験により効果判定 を行い、理解度を深める。					
8	中間テスト 解説					股関節の運動学の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
9	・他の内部障害					膝関節の運動学の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
10	・他の内部障害					足関節の運動学の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
11	・他の内部障害					頸部・体幹の運動学の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
12	・他の内部障害					顔面筋・体表解剖の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
13	・他の内部障害					姿勢の運動学の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
14	・他の内部障害					運動学習の運動学の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
15	期末テスト 解説					第8～14回の内容を、Teamsを用いた試験により効果判 定を行い、理解度を深める。					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間テスト(50点)と期末テスト(50点) の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ず る。						毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを とること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名								田原和樹			
総合演習Ⅰ				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕											
担当教員は長年、医療機関において様々な疾患に対するリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、これまでの学習や演習を振り返りながら、運動器疾患・中枢神経疾患に関する基礎知識を関連付けて学習し身に付けることを目的とする。											
〔到達目標〕											
・3年次前期までに学習した内容の総復習を行い、国家試験や臨床実習で活用できるよう知識を整理する。 ・臨床実習で必要となるクリニカルリレーズニングの能力を養う。											
〔使用教材、参考文献等〕											
・配布資料(Teamsにアップロード)											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション 国家試験演習問題(運動器)					授業の目的、評価基準を理解することができる。					
2	国家試験問題演習(運動器疾患) 小テスト1					運動器疾患に関する内容の総復習を行い、国家試験で問われる知識を整理することができる。					
3	国家試験問題演習(運動器疾患) 小テスト2					運動器疾患に関する内容の総復習を行い、国家試験で問われる知識を整理することができる。					
4	国家試験問題演習(運動器疾患) 小テスト3					運動器疾患に関する内容の総復習を行い、国家試験で問われる知識を整理することができる。					
5	国家試験問題演習(運動器疾患) 小テスト4					運動器疾患に関する内容の総復習を行い、国家試験で問われる知識を整理することができる。					
6	国家試験問題演習(運動器疾患) 小テスト5					運動器疾患に関する内容の総復習を行い、国家試験で問われる知識を整理することができる。					
7	国家試験問題演習(運動器疾患) 小テスト6					運動器疾患に関する内容の総復習を行い、国家試験で問われる知識を整理することができる。					
8	国家試験問題演習(中枢神経疾患) 小テスト7					中枢神経疾患に関する内容の総復習を行い、国家試験で問われる知識を整理することができる。					
9	国家試験問題演習(中枢神経疾患) 小テスト8					中枢神経疾患に関する内容の総復習を行い、国家試験で問われる知識を整理することができる。					
10	国家試験問題演習(中枢神経疾患) 小テスト9					中枢神経疾患に関する内容の総復習を行い、国家試験で問われる知識を整理することができる。					
11	国家試験問題演習(中枢神経疾患) 小テスト10					中枢神経疾患に関する内容の総復習を行い、国家試験で問われる知識を整理することができる。					
12	国家試験問題演習(中枢神経疾患) 小テスト11					中枢神経疾患に関する内容の総復習を行い、国家試験で問われる知識を整理することができる。					
13	国家試験問題演習(中枢神経疾患) 小テスト12					中枢神経疾患に関する内容の総復習を行い、国家試験で問われる知識を整理することができる。					
14	総復習 期末試験対策 小テスト13					第13回までに学習した内容の総復習を行い、知識を整理することができる。					
15	期末テスト解説					テストにより授業内容の習熟度を把握する。					
〔評価について〕					〔特記事項〕						
小テスト各5点×13回(65点)と、期末テスト(35点)の計100点で評価を行う。評価方法は学則規定に準ずる。					・テストはTeamsで実施するため、PC/携帯などのデバイスを持参すること。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	3	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名					及川 広太				
総合演習Ⅰ		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する） 担当教員は長年、医療機関において様々な疾患に対するリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、これまでの学習や演習を振り返りながら、解剖学に関する基礎知識を関連付けて学習し身に付けることを目的とする。									
〔到達目標〕 1.理学療法士の臨床現場で必要とされる知識、応用力を理解し習得する。 2. 国家試験に必要な解剖学の知識を応用できる。									
〔使用教材、参考文献等〕 各回、過去問をベースとした資料をアップします。									
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	骨・関節			骨・関節に関する知識を理解し、国家試験の問題の解説ができるようになる					
2	股関節			股関節に関する知識を理解し、国家試験の問題の解説ができるようになる					
3	膝関節			膝関節に関する知識を理解し、国家試験の問題の解説ができるようになる					
4	足関節			足関節に関する知識を理解し、国家試験の問題の解説ができるようになる					
5	肩関節			肩関節に関する知識を理解し、国家試験の問題の解説ができるようになる					
6	肩関節			肩関節に関する知識を理解し、国家試験の問題の解説ができるようになる					
7	肘・手関節			肘・手関節に関する知識を理解し、国家試験の問題の解説ができるようになる					
8	肘・手関節			肘・手関節に関する知識を理解し、国家試験の問題の解説ができるようになる					
9	姿勢・動作			姿勢・動作に関する知識を理解し、国家試験の問題の解説ができるようになる					
10	姿勢・動作 歩行			姿勢・動作・歩行に関する知識を理解し、国家試験の問題の解説ができるようになる					
11	歩行			歩行に関する知識を理解し、国家試験の問題の解説ができるようになる					
12	内臓			内臓に関する知識を理解し、国家試験の問題の解説ができるようになる					
13	中枢神経			中枢神経に関する知識を理解し、国家試験の問題の解説ができるようになる					
14	末梢神経			末梢神経に関する知識を理解し、国家試験の問題の解説ができるようになる					
15	期末試験			第1～14に関する知識を理解し、国家試験の問題の解説ができるようになる					
〔評価について〕 評価は小テスト、期末試験にて行う。 小テストは行った全てのテストの合計点を50点換算し評価する。期末試験は50点満点とし、小テストとの合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリント、資料の配信による授業を行なう。					